

今年の会場について」

以下の文章【会場を決めるにあたって、実行委員会で話し合ってきたこと】は、関西クリア映画祭2014実行委員会で、6月18日に承認され、ブログ・ニュースメール等で公開したものです。

***** ここから *****

【会場を決めるにあたって、実行委員会で話し合ってきたこと】

梅雨といいながら夏本番のような日差しの毎日、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

先日、関西クリア映画祭2014の日程と場所について私たち実行委員会から発表させていただきました。みなさんもお気づきとは思いますが、去年とは大きく異なり、一つの会場での開催そして期間も3日間と短くなりました。

多くの方から、ええっそうなの?! どうして?? というお声をいただきましたので、そのことについて、私たち実行委員会がどのように考え、この結論に至ったのか、少しお話しさせていただきますと思います。

まず、2014年の関西クリア映画祭は開催そのものがとても危うい状態でした。これまでの経験豊かなメンバーに入れ替わり、新しいメンバーでスタートを切りました。全てのことが手探りで、また議論もゼロから積み上げなければなりませんでした。『当たり前』で進んでいたことが全て崩れ去るような、というか、そもそも何から手をつけたらよいのやらという状態でした。

ただしかし、「今年も映画祭やるな」「いい映画祭にしよな」「うちにこそ出来る映画祭があるはず」「セクマイ勇気づけたいな」「来てくれる人みんなの映画祭にしたいな」という思いが私たちを引っ張りました。

そんな中、去年まで共催として使わせていただいていたホールは、その商業形態が変わり、貸しホールとなったため、(私たちにとっては)かなりの使用料がかかると分かりました。

また、昨年までの京都会場は、当日使用もさながらそれにいたる過程でも、非常にマンパワーが必要で、今の実行委員会でそこに力をさけば、その他の映画祭の仕事に支障をきたし、開催の有無自体を揺るがすと結論づけました。

そこで、2014年は会場をまず探すという経緯に至ったのです。

探し当てた会場は、大阪北摂の豊中市。大阪梅田駅から急行で10分ほどの、小さなホール。上映ホールだけでなく、交流スペースになりそうな自由な場所も充実していて、そこにどんな空間を創りだせるか実行委員は今ワクワクしています。また駅から直結で、雨に降られることもなく、アクセスのしやすさ使いやすさは抜群です。

この施設はプレ企画でも使わせてもらい、実際に使うことで、私たち実行委員自身もここでやろうという気持ちが固まりました。

また、「男女共同参画」という理念を掲げる施設で「クリア」のイベントをすることで、性別二元論による枠組みに慣れ親しんでいる自分自身と向き合い、社会に「なぜ女か男かどちらかの選択肢しかないのか、そもそもなぜ選択しなければならないのか」を問いかける場をつくりたいと考えています。

他のところならあんなことやこんなことが出来たかも、前使っていたところならもっとたくさん人を呼べたかも。そんな思いがないわけではありません。

しかし、新たな場所で新たな人たちとつながりながら新しい試みに向かうことは、関西クリア映画祭2014をより豊かにする取り組みになると私たちは確信しています。

本祭までまだまだたくさんの課題がありますが、これからもたくさんのご支援やご協力を賜りながら、そして是非とも来場していただけるよう、実行委員一同、真摯に取り組んでいきたいと思ひます。

2014年6月18日
関西クリア映画祭2014実行委員会

***** ここまで *****

上記の文章を公開した後、会場のすてっぷ様の協力を得て、クィアトイレ（性別に関係なく誰でも使えるトイレ）を設置できることになり、また、今年初の取り組みとなるクィアスペース(交流スペース)の実現が決まりました。

しかしながら、公の機関でもあるこの施設で行う難しさ（営利目的で利用しないことや差別的表現を避け私たちの思いを表現することなど）も同時に感じました。

この施設で、関西クィア映画祭2014を開催するにあたって、たくさんの方が関わり、ご協力・ご支援いただき、特にすてっぷのスタッフの方々には、時間を割き、話し合いの場を設けていただきましたこと、この場をお借りして、深く感謝いたします。

2014年10月17日
関西クィア映画祭2014実行委員会